

21 世紀型・人間中心の防衛戦略

— 命・暮らし・地球を守る「総合防災国家」へ —

1. なぜ、いま「人間中心の防衛」なのか？

かつての防衛は「他国の軍事的脅威」への備えが中心でした。

しかし、21 世紀の日本が直面しているのは、以下のような**「非軍事的・複合型リスク」**です：

- 巨大地震、津波、火山噴火、台風・豪雨・土砂災害
- 気候変動による海面上昇、スーパー台風、異常気象、食糧危機
- 感染症パンデミック、高齢化による医療・介護崩壊
- サイバー攻撃、通信インフラ喪失、物流寸断
- 地下水枯渇、土壌・海洋汚染、エネルギー不安

これらは日常の安全保障＝人間の生命・生活・地域経済に直結する危機であり、従来の軍事的防衛だけではまったく対応できません。

2. 防衛の再定義：「命を守る」ことこそ、最大の防衛

「戦う防衛」から「守る防衛」へ

目に見える敵ではなく、暮らしの基盤を脅かす危機に備える

✓ 目指すべき 3 つの柱：

1. 人命の保護 (Rescue)
地震・感染症・洪水・猛暑から命を守る国づくり
2. 生活の維持 (Resilience)
医療・食料・エネルギー・通信・物流を止めない体制整備
3. 未来への備え (Redesign)
再エネ、防災教育、地域連携を通じたレジリエンス社会の構築

3. 統合組織構想：「防災庁 × 自衛隊」で防衛費 5% の納得へ

● 提案：「防災庁（仮称）」の創設

- 消防庁、自衛隊、警察、気象庁、環境省、厚労省、文科省などを横断統合

- ・ 平時は教育・訓練・情報共有、有事は迅速な指揮・出動・支援
- ・ 民間：病院、建設業界、通信・流通、小売、ボランティア団体と連携

● 財政構成(例)：GDP 比 5%でも納得される理由

分野	内容	予算比率例
自衛隊	防衛・災害派遣・国際救援	2.0%
統合防災庁	震災・洪水・感染症・気候変動対策	1.5%
医療・防疫	パンデミック対応、避難所の医療整備	0.5%
エネルギー・環境	再エネ・備蓄・食料安全保障	0.5%
教育・訓練	防災教育・地域共助訓練	0.5%

➡ 合計 5.0%

これなら、「軍拡ではなく命を守る予算」として国民が納得・共感できます。

4. メッセージ：未来を守る新しい防衛哲学

- ・ 「防衛＝戦争の準備」ではなく「災害と環境の備え」
- ・ 気候・感染症・食糧危機に立ち向かう国こそ、最強の国
- ・ 戦争ではなく、気候災害と闘う 21 世紀型の平和国家へ
- ・ 国を守るとは、人を守ること。今こそ人間中心の防衛を。

「防災と環境こそ、日本の最大の安全保障」

戦車よりもドローン、戦闘機よりも給水車、防衛予算は命と暮らしを守る投資に。
次世代に誇れる、世界に示せる、新しい防衛戦略を日本から。